

アトピー性皮膚炎と皮膚の感染症 2

アトピー性皮膚炎の治療は、アレルゲン除去とステロイド外用剤塗布が最も早く良くなる方法なのですが、ステロイド外用剤塗布で、思わぬ悪化をする場合があります。その1つは真菌感染を合併している場合です。カンジダや白癬菌、マラセチアなどです。糖尿病や癌、肥満、過労、不眠症などで免疫力が低下している場合、抗生物質をよく内服している場合、日焼け止めクリームを塗りすぎている場合などで、皮膚に真菌類が増えていると思われるのですが、そこにステロイド外用剤を塗布しますと悪化してしまいます。あるいは、いったん良くなったように見えて次に以前より悪化し、病巣が広がることがあります。このような時は抗真菌剤を使用します。硫黄の温泉や強酸性の温泉も有効です。食事では甘いものや過食、アルコールを控え、ドクダミ茶やニンニク料理を摂るようにしましょう。皮膚は清潔にし乾燥させます。もとのアトピー性皮膚炎が強い場合、ステロイド外用剤と併用したり、抗真菌薬を内服しながら、ステロイド外用剤を使用するなどにも必要になります。強い日焼け止め化粧品＝美白化粧品を使い続けて顔にまで真菌感染を引き起こした方もおられます。適度の太陽の光はビタミンDを合成したり、真菌を抑えたりなど、とても大切なものです。

以上、表在性真菌症で角質までの感染症ですが、まれに深部皮膚真菌症もみられます。そのほとんどはスポロトリコーシスです。虫刺されのような発疹から結節、膿瘍、潰瘍など多彩な病巣を呈し広がっていきます。本来は 自覚症状がほとんど無いのですが、接触性のアレルギー反応と共に出現するために、痒みがあり、ステロイド外用剤を使用してしまうと、その後リンパ管を通過してリンパ節に次々と広がっていきます。通常、土壌や木材、植物表面に腐生的に生息する真菌として知られています。何らかの原因により免疫力が低下している場合を除き、急速に重症化することはなく、ゆっくり進行します。肝障害に注意して最適な内服抗真菌剤を使用し治療します。

ステロイド外用剤を使用して悪化する原因の一つには、単純ヘルペスウイルス感染症の合併もあります。小さな水疱が寄り集まり、痒いというよりピリピリする痛みを感じます。初感染のばあいは、範囲も広く高熱が出たりします。ステロイド塗布で一気に悪化します。いち早くヘルペス用の薬剤の内服、外用が必要です。

悪化の原因の最後はとびひです。ブドウ球菌が主ですが、溶連菌もあります。アトピー性皮膚炎の上にこれらの細菌感染が起こりますと、痒みで引っ掻くために全身に広がり易くなります。集団生活の場では他の子供たちにも伝染していきます。放置しないで、できるだけ早く抗生剤の内服や外用、消毒が必要です。オーリングテストで、アレルギーを起こさず、最も有効な薬剤を選びます。

以上、ステロイド外用剤により悪化する感染症につき述べました。もちろん、ただ塗っている薬剤が合っていない、と云うだけのこともありますので、ご心配な方はご相談ください。